

令和 6 年 3 月 22 日

今年度の関西デザイン経営プロジェクトの成果をとりまとめました

近畿経済産業局は、今年度の関西デザイン経営プロジェクトの成果として、小冊子「中小企業をアップデートする!」、事例集「経営って山登り? デザイン経営 GUIDE BOOK」をとりまとめました。

先が見通せない VUCA の時代に、経営者の想いを軸として経営にデザインの力を取り入れ、経営課題の解決や事業成長につなげていくことの大切さをまとめていますので、デザイン経営に関心のある方はもちろんのこと、これからの事業のあり方や事業承継をはじめとする様々な悩みを抱える経営者の方も是非ご覧下さい。

1. 概要

近畿経済産業局では、経済産業省・特許庁の「デザイン経営宣言」を受け、多くの中小企業がブランド構築やイノベーション創出に資するデザイン経営を実践できるよう、令和 3 年度から「関西デザイン経営プロジェクト」に取り組んでいます。

3 年目となる今年度は、すでにデザイン経営といえる取組をされている事業者を専門家目線で分析し、デザイン経営による成長ストーリーをまとめた小冊子「中小企業をアップデートする!」を作成するとともに、今年度新たに公募によって選定された 3 者に対して伴走支援を行い、その成果を「経営って山登り? デザイン経営 GUIDE BOOK」としてとりまとめました。

2. 小冊子「中小企業をアップデートする!」について

経営課題に直面し、試行錯誤の取組を通じて成長を遂げている関西の中小企業があります。その取組を紐解くと、デザイン経営の要素が見えてきました。今回は、業種も規模も異なる 5 者の事例を基に、製品の捉え直しやビジョンの言語化などの取組をデザイン経営の視点で分析しました。また、取組のポイントをデザイン経営の専門家が解説しています。

社会変化に対応しながら経営をアップデートしている事業者の取組をご覧いただき、これからの経営のヒントとなれば幸いです。

【掲載事例】

クスカ株式会社 (京都府与謝郡)	伝統的な技術を見つめ直し、独自の手織りでしか表現できない生地を活かしたネクタイを生産
共和鋼業株式会社 (大阪市淀川区)	ひし形金網の意味を捉えなおし、新たな可能性を開拓
株式会社神防社 (神戸市中央区)	経営陣の想いを行動指針に反映し、一体感のある組織を構築
株式会社友安製作所 (大阪府八尾市)	会社の価値観の徹底した言語化により、事業のつながりと共感を醸成
株式会社ワカヤマ (福井県鯖江市)	社内外への発信による社員の一体感醸成と新事業の創造

3. 事例集「経営って山登り？デザイン経営 GUIDE BOOK」について

予測困難な時代のなか、経営においては時には立ち止まり、自社や周りを確認して取るべき計画を見直しつつ、目標に向けて再び歩き出すことが重要で、この試みがデザイン経営といえるものです。そこで今年度は、経営を「山登り」に例え、3 者に対するデザイン経営の導入プロセスを、「現在地を確認する」、「ルートを計画する」、「ふたたび歩き出す」の要素に分けて、経営者の気持ちの変化とともにまとめています。

事業者ごとに登る山は異なり、自社ならではの「ルート」があるはずです。本事例集がデザイン経営に関心のある事業者の皆様の参考となれば幸いです。

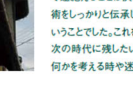
【掲載事例】

小嶋織物株式会社 (京都府木津川市)	織物襖紙・壁紙の市場が縮小するなか、自社技術の伝承のため、「絶やさず織り重ね続ける」というアイデンティティのもと進める「輝く壁紙」のプロトタイピング
株式会社日東社 (兵庫県姫路市)	挑戦が少ないという企業文化からの脱却に向け、自社のルーツ・地域と向き合い、社員が自分ごととして取り組んでもらうためのインナーブランディング
錦城護謄株式会社 (大阪府八尾市)	一体感が生まれていない組織の改革に向けて、「架橋」というゴムの化学反応をキーワードにした経営者の想いの言語化と組織デザイン

[illegible]

小嶋織物の豆田舎

現在地を確認する



テレビ制作会社に勤務後、家業に戻ってきた小嶋氏。新規事業開発や組織デザインに悩み、今回のプロジェクトに応募しました。伴走者とのセッションを重ね、気づいたことがあります。それは、小嶋織物が自分の代で途絶えることは決してあってはならず、そのために小嶋織物が持つ技術をしっかり和伝承していきたいという想い「絶やさず継ぐね続ける」ということでした。これをきっかけに、今の自分が取り組んでいる新規事業を次の時代に残したいという気持ちへと変化しました。この気づきは、今後何かを考える時や迷った時に、小嶋氏が立ち戻るポイントになります。

ルートを計画する



小嶋織物の技術の次の時代へ。5年前から、小嶋氏は機織がある生活を再び追求するために導電性の壁紙の開発に取り組み、新たな市場に挑戦する準備を整えています。かつて機織はアートとして身分を超えて親しまれ、同時に、機織のある生活は心を豊かにものにしてきていました。小嶋氏は現状、壁紙が素材としてのみ使われていることに引っ掛かを感じていたと言います。インテリアを超えて、アートに、それは機織の定義を変えるのではないか、機織の可能性を元に戻す。「絶やさず、継ぐね続ける」というアイデンティティは、機織の原点回帰を製品に込めて、事業展開を生み出すことにつながりました。

ふたたび歩き出す



伝統工芸から生まれ未来の壁紙として存在感を示しつつ、建築と一体化するような輝く壁紙のプロトタイプを造っていきます。これまでない唯一無二の「面」として輝く機能を実装した導電性機織物を開発することはもちろん、施主・設計士・デザイナーの希望や解決手段とすること念頭に、協力してくれる人を巻き込んで満をげたいとのこと。また、中長期的には博物館のようなショールームの立ち上げ、オンラインプラットフォーム戦略などを実施し、伝統産業復興への軌跡と新たな挑戦を広く伝えていきます。

山登りして生み出したこと



私自身、伴走者を作って、一緒に取り組むことに抵抗感がありました。それは、先輩経営者たちも1人で悩み、取り組んでいて思ったからです。そんな中、カッコいい先輩経営者から話を伺うと、じつは伴走者がいたんですね。その時まで全部1人でやらなければならない。自分1人で全てはできない。伴走者がいることは恥ずかしいことではない、社外はもちろん、社内のメンバーの中でもそのような方がいると良いと気づかれました。また、今回デザイン経営の取り組みで伴走者がいたという点に、私自身のことをさんざん聞いていただいて、深掘りできて本当に良かったです。自分のアイデンティティを確固とした時に立ち戻る「絶やさず、継ぐね続ける」という言葉もより強くなり、気持ちもすっきりしました。そのような大切なことに気づく、ここから再び歩き出すようにしてくれたのがデザイン経営でした。



取締役
小嶋 忠理香

(本発表資料のお問い合わせ先)

近畿経済産業局 知的財産室長 上田

担当者:小谷、伊藤

電 話:06-6966-6016

FAX :06-6966-6064

